

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360044

研究課題名(和文) 近現代中国の漫画雑誌等の図像からみる政治・文化転形とジェンダーの相関性の分析

研究課題名(英文) Research Project on Representations of Modern Chinese Political and Cultural Transformation in Manhua or Cartoon Magazines Focusing on the Gender Factor

研究代表者

坂元 ひろ子 (Sakamoto, Hiroko)

一橋大学・名誉教授

研究者番号：30205778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：中国の20世紀初頭(清末)から1950年代(60年代初頭を含む)までの政治的、思想文化的な転形の様相についての研究は、従来、政治権力分析に傾きがちであった。それに対して本研究は清末・中華民国期の漫画雑誌に加え、その後続にあたる中華人民共和国建国期1950年代刊行の『漫画』月刊のテキストに注目して中国・アメリカで収集し、欧米・ロシア・インドの図像との関連性をも視野にいれ、清末からの長期にわたるパースペクティブからジェンダー構造について分析した。

研究成果の概要(英文)：It is important to have a perspective that extends beyond a narrow range of power politics in order to understand Modern Chinese (early and mid-20th century) political and cultural transformation. This research analyzed not only works of literature but also images represented in Manhua or cartoon magazines published in the era of late Qing, Republican China and monthly Manhua published in the 1950s from the perspective of gender analysis as well as a long-term, broader view.

研究分野：中国近現代思想文化史

キーワード：ジェンダー 中国思想文化 革命文化 中国近現代史 図像 中国漫画雑誌 文化転形 近代アート

1. 研究開始当初の背景

2010年～2013年度の研究課題「視覚資料の活用による、初期グローバル化時代中国の思想文化史のジェンダー化研究」(科研費基盤(C))では、清末の思想史研究に当時の画報の分析を加え、辛亥革命のプレッシャーに耐える革命家たちの精神装置としての「神経病」の流行をとらえ、一方で女性の纏足解放が立憲準備期の「進歩」の展望の象徴となったこと、科挙廃止後に誕生した女学生や産業進展にともない誕生した女工たちが画報において次第にファッション・リーダーとしての妓女に取って代わっていき、五四新文化運動以降の新女性、さらに両世界大戦の戦間期のモダンガール登場の展望を可能としたものと位置づけた。だが女性を描いたのはほとんどモダンボーイでもあった男性画家であり、ジェンダー規範の侵犯への潜在的恐れがあり、1930年代の戦時色が強まるにつれ、日本からのエロ・グロ色情文化の影響も加わり、モダンガールを「奇形的に進化した」妓女、さらに日中戦争中には多くは難民か敵の日本兵に陵辱された女性として描くようになったことを跡づけた。そうした描き方に対して抵抗する女性漫画家も現れ、その希少にして突出した例として梁白波(1949年ころ台湾に移る)に着目、研究基盤を築いた。

また、モダンガールについての国際シンポジウムの開催(2010年、一橋大学)でモダンガールを植民地主義と東アジアでの思想文化の連鎖の問題として総括的な位置づけて発信をし、共編『新編 原典中国近代思想史』(全7巻、岩波書店)刊行への編集委員としての参加で、中国近代思想文化史のジェンダー化をはかる見通しをたてた。

2. 研究の目的

社会主義革命を経た中華人民共和国における建国期には、大きな動乱、文化大革命に結びつくことになる百花斉放・百家争鳴から反右派闘争、急速な人民公社化の実験と併行した大躍進とその調整期にかけて、政治的、思想文化的な大転形の様相を呈した。その転形の様相分析をめざす研究は少なくないが、そうした研究の多くは政治権力分析に傾きがちである。そのため、第一に、清末に始まっていて辛亥革命に結びついた転形を視野にいられた長期にわたるパースペクティブを欠き、第二に、その期間における転形の大きな構成要素をなすジェンダー構造についての分析を欠くことになる。

以上の欠落を克服すべく、清末からの転形をジェンダー構造の改変もふくめて把握することで、長いスパンで再度、とらえなおそうとする。大転形期の時期に刊行され、すでに分析をしてきた民国期の漫画雑誌とも深く関係した『漫画』月刊(漫画月刊社、最初は上海、のち北京で刊行、1950 - 1960年、1960年3月号までは確認、最終刊行年月未詳)を主要な分析対象とすることで、ジェンダー分

析に必要な資料的な裏づけが得られやすくなる。この『漫画』月刊を用いた本格的な研究は管見の限り見当たらない。

具体的にはこれまでの研究をふまえ、以下の研究をおこなう。

(1) 抗日戦後の内戦期(1940年代後半)の漫画雑誌はほとんど不在(入手の困難さも含める)であることから、広く新聞や一般雑誌の漫画などによって分析をおこなう。

(2) 1950年代については、『漫画』月刊を主に分析する。建国当初はことに全般的な職不足の背景があり、むしろ多くは外に職をもたない家庭女性には「子どもの良き母、革命をする夫のよき助手」であることが模範とされていたのが、大躍進における労働動員によって利用されたとはいえ、外で初めて働く経験を得た女性たちの意識を、フェミニストの観点から、ジェンダーにおける新たな意義を分析している陳雁復旦大学教授や王政ミシガン大学教授らの研究も参照する。

(3) 漫画雑誌とは別に、民間伝統風俗画家が転身して描いたカレンダー(民国期に会社や商店が多く贈答品とした)・ポスター類の画家の系譜からは、中華人民共和国期のプロパガンダ・ポスター画家への転身が少なからずみられる。一部の漫画家もプロパガンダ・ポスターを手がけていることから、その分析もあわせておこなう。毛沢東崇拜の構図とジェンダーの関係への考察をすることにもなる。

(4) そのうえで、清末からの流れを通して把握することで、大転変の様相を長期的に再度、とらえなおすことをめざす。

3. 研究の方法

社会主義革命を経た中華人民共和国における建国期には、大きな動乱、文化大革命に結びつくことになる百花斉放・百家争鳴から反右派闘争、急速な人民公社化の実験と併行した大躍進とその調整期にかけて、政治的、思想文化的な大転形の様相を呈した。その転形の様相分析をめざす研究は少なくないが、そうした研究の多くは政治権力分析に傾きがちである。そのため、第一に、清末に始まっていて辛亥革命に結びついた転形を視野にいられた長期にわたるパースペクティブを欠き、第二に、その期間における転形の大きな構成要素をなすジェンダー構造についての分析を欠くことになる。

以上の欠落を克服すべく、清末からの転形をジェンダー構造の改変もふくめて把握することで、長いスパンで再度、とらえなおそうとする。大転形期の時期に刊行され、すでに分析をしてきた民国期の漫画雑誌とも深く関係した『漫画』月刊(漫画月刊社、最初は上海、のち北京で刊行、1950 - 1960年、1960

年3月号までは確認、最終刊行年月未詳)を主要な分析対象とすることで、ジェンダー分析に必要な資料的な裏づけが得られやすくなる。この『漫画』月刊を用いた本格的な研究は管見の限り見当たらない。

具体的にはこれまでの研究をふまえ、以下の研究をおこなう。

(1)抗日戦後の内戦期(1940年代後半)の漫画雑誌はほとんど不在(入手の困難さも含める)であることから、広く新聞や一般雑誌の漫画などによって分析をおこなう。

(2)1950年代については、『漫画』月刊を主に分析する。建国当初はことに全般的な職不足の背景があり、むしろ多くは外に職をもたない家庭女性には「子どもの良き母、革命をする夫のよき助手」であることが模範とされていたのが、大躍進における労働動員によって利用されたとはいえ、外で初めて働く経験を得た女性たちの意識を、フェミニストの観点から、ジェンダーにおける新たな意義を分析している陳雁復旦大学教授や王政ミシガン大学教授らの研究も参照する。

(3)漫画雑誌とは別に、民間伝統風俗画家が転身して描いたカレンダー(民国期に会社や商店が多く贈答品とした)・ポスター類の画家の系譜からは、中華人民共和国期のプロパガンダ・ポスター画家への転身が少なからずみられる。一部の漫画家もプロパガンダ・ポスターを手がけていることから、その分析もあわせておこなう。毛沢東崇拜の構図とジェンダーの関係への考察をすることにもなる。

(4)そのうえで、清末からの流れを通して把握することで、大転変の様相を長期的に再度、とらえなおすことをめざす。

4. 研究成果

(1)権力政治面に偏りがちな近現代中国の激動期の転形分析に、テキストとしては、これまで扱ってきた清末からの画報、中国主要都市部、とりわけコロニアルな租界地で流行した新しい媒体として民国期に最盛期を迎えた漫画雑誌等に加え、これまで用いられてこなかった1940年代のものとして、上海の『永安月刊』の漫画欄を主に考察した。百貨店の刊行物という性格もあり、日中戦争、太平洋戦争期の日本軍占領期を含む上海の庶民の暮らしの困窮ぶりと庶民のしたたかさを描きだすことで刊行をもちこたえたことが考察された。

(2)テキストにおいて、1950年代を通しての『漫画』月刊という恰好の図像資料を発掘して接合し、さらにジェンダー観点を加えて分析をおこなった。復刻もないこの主要テキスト『漫画』月刊を研究期間中に中国国家図書

館・北京大学、米国スタンフォード大学図書館にて不揃いながら可能な限り、撮影することができた。この調査によって、世界的にも流行したモダン・アートに刺激されていた民国期の主要な漫画雑誌『上海漫画』『時代漫画』『漫画生活』『救亡漫画』『抗戦漫画』等に作品を寄せた漫画家たちが編者となり、無名の労働者とともに作品を寄せた漫画雑誌『漫画』月刊における作品が政治運動との関係から民国の最盛期、そして抗日戦争期のプロパガンダ化からさらに変化していった様相も比較することから見てとれた。

(3)『漫画』月刊のジェンダー分析で浮かび上がったのは、1950年代前半まで女性は表紙をはじめ、主人公として描かれることは存外少なく、新婚姻法のキャンペーンなどを除けば、戦闘・生産面の英雄として描かれた男性に対して女性はせいぜい生産模範と描かれ、脇役とされていたことがわかった。1958年の大躍進時期の急速な農工業の大増産政策、農業合作化・人民公社化が進められる段階になって、農村部も含めて女性は否応なく仕事に動員される反面、おおっぴらに家庭を離れて外で働く喜びや識字の機会を持つようになったさまもみてとれ、共同食堂や託児所も多く描かれる。毛沢東が図像において多民族の女性に囲まれつつ太陽にシンボル化されるにつれ、やがて文化大革命期にはジェンダーは抑圧され、「鉄の娘」という男性化した女性像もつくられるようになるその前兆も、反革命鎮圧キャンペーンあたりからみてとれる。

(4)また中国の近代文化、図像文化に大きな影響をもたらしながらそれについての研究の少ない、西欧、ロシア、ならびにインド(仏教やヒンズー教などにおける図像)など周辺アジアの文化との関連も考察しえた。ロシアのアヴァンギャルドや社会主義のアートの中国への影響はもとより、年画などの中国民間風俗画のロシア近代アートへの影響関係、これまでも注目してきた20世紀希少の中国女性漫画家、梁白波に対するドイツのK・コルヴィッツの思想、アートの影響も確認できた。

(5)以上のような研究によって、20世紀初頭から1950、60年代の社会主義革命後の激動時代の社会主義プロパガンダ・アート化を含む思想文化転形へのロングスパンの分析としえた。この成果はまた中国近現代思想文化史のジェンダー化をより推し進め、その一端は『中国近代の思想文化史』(岩波新書、2016年)にも反映させ、公刊することができ、中国近現代思想史研究の深化にも寄与したことになる。今後、さらに詳細な分析を経たうえでの公刊を通して成果を発信していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

坂元 ひろ子、(第九章)中国民族主義とジェンダー、小浜正子・小倉渉・佐々木愛・高嶋航編著『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会(図書所収論文)、査読有、2017、印刷中

坂元 ひろ子、(第三章 伝統文化の過去と現在)1 ジェンダー、光田剛編『現代中国入門』筑摩書房(図書所収論文)、査読無、2017、131-154

坂元 ひろ子、Chapter 9: The Impact of Versailles on Chinese Nationalism as Reflected in Shanghai Graphic and Urban Culture, 1919-31、Zachman, Urs Matthias ed., Asia after Versailles: Asian Perspectives on the Paris Conference and the Interwar Order, 1919-33, Edinburgh: Edinburgh University Press (図書所収論文)、査読有、2017、212-236

坂元 ひろ子(弘子)、章太炎对身体的看法和仏教、医学的關係、章念馳編『章太炎生平与學術』下、(上海)上海人民出版社(図書所収論文)、査読無、2016、732-746

坂元 ひろ子、Chinese and Japanese Women Represented in Cartoon Magazines during the Anti-Japanese War Period (原タイトル韓国語)、延世大学校国学研究院(ソウル)編『東方学志』169輯(図書所収論文)、査読有、2015、1-32

坂元 ひろ子(弘子)、再論嚴復『天演論』翻訳的創造性—有関選訳赫胥黎原文文本の問題(中国語)、陳鼓應編『道家文化研究(第二十八輯): 嚴復專号』(北京)生活・読書・新知三聯書店(図書所収論文)、査読有、2014、133-157

坂元 ひろ子(弘子)、辛亥革命与社会性別(中国語)、四川辛亥革命暨尹昌衡国際学術研究会組委會編『四川辛亥革命暨尹昌衡国際学術研究会論文集』(北京)中国社会科学出版社(図書所収論文)、査読有、2014、124-140

〔学会発表〕(計11件)

坂元 ひろ子(弘子)、在図像中の清末民国女性(中国語)、首都師範大学講座、2016年12月15日、首都師範大学、北京(中国)

坂元 ひろ子(弘子)、浅析早期杜亜泉之文明与“社会疾病”論(中国語)、“晚清思想中的中西新旧之争”学術シンポジウム、2016年12月10日、清華大学、北京(中国)

坂元 ひろ子(弘子)、談付梓『中国近現代思想文化史』(岩波新書)之後的省思(中国語)、北京大学人文科学研究院講座、2016年10月18日、北京大学、北京(中国)

坂元 ひろ子(弘子)、晚清民国文芸界人士的性別觀(中国語)、北京大学人文科学研究院講座、2016年10月13日、北京大学、北京(中国)

坂元 ひろ子、コメント "New Women, Feminist Activists, Concubines, and Prostitutes: Divisions and Dialogue in the Afterlives of Chinese Polygamous Practices"、2016 AAS-in-Asia Conference、2016年6月26日、同志社大学(京都府京都市)

坂元 ひろ子(弘子)、從戦争表象探討記憶及歴史責任: 以抗戰時期宣傳漫画為例(中国語)、超越国族の歴史学与戦争責任国際学術シンポジウム、2016年6月18日~19日、香港城市大学、香港(中国)

坂元 ひろ子、コロニアル・モダン上海の女性漫画家と戦争—ポストコロニアルの地平から(ドイツ語タイトル)、International workshop: Banned Images、2015年4月19日、nGbK(新視覚芸術協会)、ベルリン(ドイツ)

坂元 ひろ子、作為“早期全球化”的近代与章太炎(中国語)、「章太炎の解読与現代中国思想」国際ワークショップ、2014年11月29日、東京大学(東京都目黒区)

〔図書〕(計1件)

坂元 ひろ子、岩波書店、中国近代の思想文化史(岩波新書) 2016、303

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂元 ひろ子(Sakamoto Hiroko)

一橋大学・名誉教授

研究者番号: 30205778